

令和2年度入学者選抜学力検査問題

9時30分—11時00分 共同教育学部学校教育教員養成課程志願者

教育人間科学系を志望した者

人文社会系を志望した者

自然科学系を志望した者

芸術・生活・健康系(家政分野)を志望した者

小論文 (本文12ページ)

- [注意]
1. 検査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
 2. 「受験番号」は、解答用紙の受験番号欄に記入しなさい。
 3. この冊子には「小論文(教育人間科学系)1頁～3頁(1問題)」「小論文(人文社会系)4頁～9頁(1問題)」「小論文(自然科学系)10頁～11頁(2問題)」「小論文(芸術・生活・健康系(家政分野))12頁(2問題)」の問題があります。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合は申し出なさい。
 4. 解答は、必ず解答用紙の所定の解答欄に記入しなさい。所定の欄以外に記入した場合には、採点できないことがあります。
 5. 教育人間科学系の志望者は、「小論文(教育人間科学系)」を解答すること。
 6. 人文社会系の志望者は、「小論文(人文社会系)」を解答すること。
 7. 自然科学系の志望者は、「小論文(自然科学系)」を解答すること。
 8. 芸術・生活・健康系(家政分野)の志望者は、「小論文(芸術・生活・健康系(家政分野))」を解答すること。

小論文（共同教育学部） 問題訂正

〈問題訂正〉

小論文（共同教育学部）

2 ページ下から1行目 問題文の出典について次のとおり訂正する。

(誤) … 『現代っ子の生活と遊び』

(正) … 『現代っ子の遊びと生活』

小論文(教育人間科学系)

問題 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(この部分は、著作権の都合上、公開できません)

(この部分は，著作権の都合上，公開できません)

(須藤敏昭『現代っ子の生活と遊び』の一節である。なお，原文は縦書きである。)

問 筆者は「遊びのなかで得られるような経験的知識がいわば自然に学力になっていくという考え方」を批判している。この批判について、あなたはどうか。この批判について、あなた自身の考えを800字以内(改行による空白、句読点を含む)で自由に述べよ。なお、あなたの考えを述べるにあたっては、どのような立場をとっても、それで採点上不利になることはない。

小論文(人文社会系)

問題 下の文章を読んで、後の問い(問1, 問2)に答えてください。

(この部分は、著作権の都合上、公開できません)

(この部分は，著作権の都合上，公開できません)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません)

(この部分は，著作権の都合上，公開できません)

(石川一郎『2020年の大学入試問題』による。なお設問の都合で原文を一部省略・改変したところがある。)

(注) ソクラテス：古代ギリシャの哲学者

問 1 下線部に「私はそれを『自分軸』と表現しています」とあるが、筆者の考えによれば、なぜ「自分軸」が今後の大学入試において求められるようになるのか。筆者の「自分軸」という言葉を自分の言葉で説明しながら、筆者の考えを論理的に説明せよ。(500字以内。改行による空白、句読点を含む。)

問 2 問1の解答をふまえた上で、学部を問わない一般的な小論文形式の大学入試問題として、この文章で引用されたA大学の入学試験のような問題は望ましいだろうか。根拠とともにあなたの意見を述べよ。(800字以内。改行による空白、句読点を含む。)

小論文(自然科学系)

第1問 科学技術の進歩とそれに伴う人間生活の多様化の影響を受けて、地球の自然環境は急速に変化している。自然環境にかかわる次の問いに答えよ。計算が必要なものについては、計算過程も記せ。

問1 地球の大気圏上限で、太陽光線に垂直な1[m²]の平面が1秒間に受ける熱エネルギーは、 1.4×10^6 [W/m²]で、これは太陽定数と呼ばれている。地球の半径を6,400[km]として、太陽定数を使い、1秒間に地球全体が受ける熱エネルギー[W]を計算せよ。ただし、円周率は3.14とせよ。

問2 表に示したデータは、アメリカ・ハワイ州のマウナロア観測所で測定された大気中の二酸化炭素濃度である。表のデータをグラフ化し、傾向を示す線を描け。ただし、グラフの軸で、測定年の最大は2040年とせよ。

表 大気中の二酸化炭素濃度(各年とも5月の測定値を示す)

| 測定年 | 1975 | 1980 | 1985 | 1990 | 1995 | 2000 | 2005 | 2010 | 2015 | 2017 |
|--------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 二酸化炭素濃度[ppm] | 333 | 341 | 349 | 357 | 363 | 371 | 382 | 393 | 403 | 408 |

問3 二酸化炭素濃度の変化の傾向がこのまま2040年まで続くと仮定し、グラフの線を2040年まで延長せよ。グラフから、2040年時点での大気中の二酸化炭素濃度の値を推定せよ。

問4 完成したグラフを見ると、二酸化炭素濃度の変化の傾向は一次関数とみなすことができる。このときの、二酸化炭素濃度の1年あたりの変化量[ppm]を推定せよ。

第2問 以下の文章は国連広報センターホームページに掲載されている、パリ協定（気候変動抑制に関する多国間の国際的な協定）の抜粋である。これを読んだ上で、温暖化が進むと私たちの生活はどう変化するであろうか、あなたの考えを600字以内（改行による空白，句読点を含む）で述べよ。

IPCC^[1]が評価を行った科学研究によると、地球温暖化を産業革命以前との比較で平均1.5℃以内に抑えれば、地球と人間に対して永久に壊滅的被害が生じることを避けられる可能性があります。具体的な被害としては、北極と南極に住む動物にとって取り返しのつかない生息地喪失、致命的な酷暑の頻発、3億人以上に影響しかねない水不足、コミュニティーや海洋生物全体にとって欠かせないサンゴ礁の消滅、小島嶼国^[2]の将来と経済に脅威を与えている海水面の上昇などが挙げられます。

国連は全体として、気温上昇を2℃ではなく、1.5℃に食い止められれば、気候変動の影響を受ける人々が4億2,000万人減ると見えています。

私たちは依然として、カーボンニュートラル^[3]な未来へと向かう曲がり角から程遠い位置にあり、前進の必要性はこれまで以上に大きくなっています。データを見れば、気温の上昇を1.5℃に抑えることはまだ可能であることがわかりますが、挽回のチャンスの扉は閉じかかっており、今後は社会のあらゆる側面で、未曾有の変革が必要になるでしょう。

[1] 国際的な専門家で作る、地球温暖化についての科学的な研究の収集、整理のための政府間機構。

[2] 小規模な島や沿海部の低地を有する国々。モルディブなど。

[3] なんらかの活動を行った際に、排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素が同じ量であるという概念。

出典：https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/31408/

小論文(芸術・生活・健康系(家政分野))

第1問 日本は自然災害が多い国であり、2011年3月には東日本大震災が発生しました。地震に対応する住まいと住まい方について、600字以内(改行による空白、句読点を含む)で述べてください。

第2問 住まいが地球環境に及ぼす影響は小さくありません。住まいが地球環境に及ぼす影響について説明するとともに、それら影響を緩和する方法について、800字以内(改行による空白、句読点を含む)で述べてください。